

5 原因・動機別の自殺者数の推移

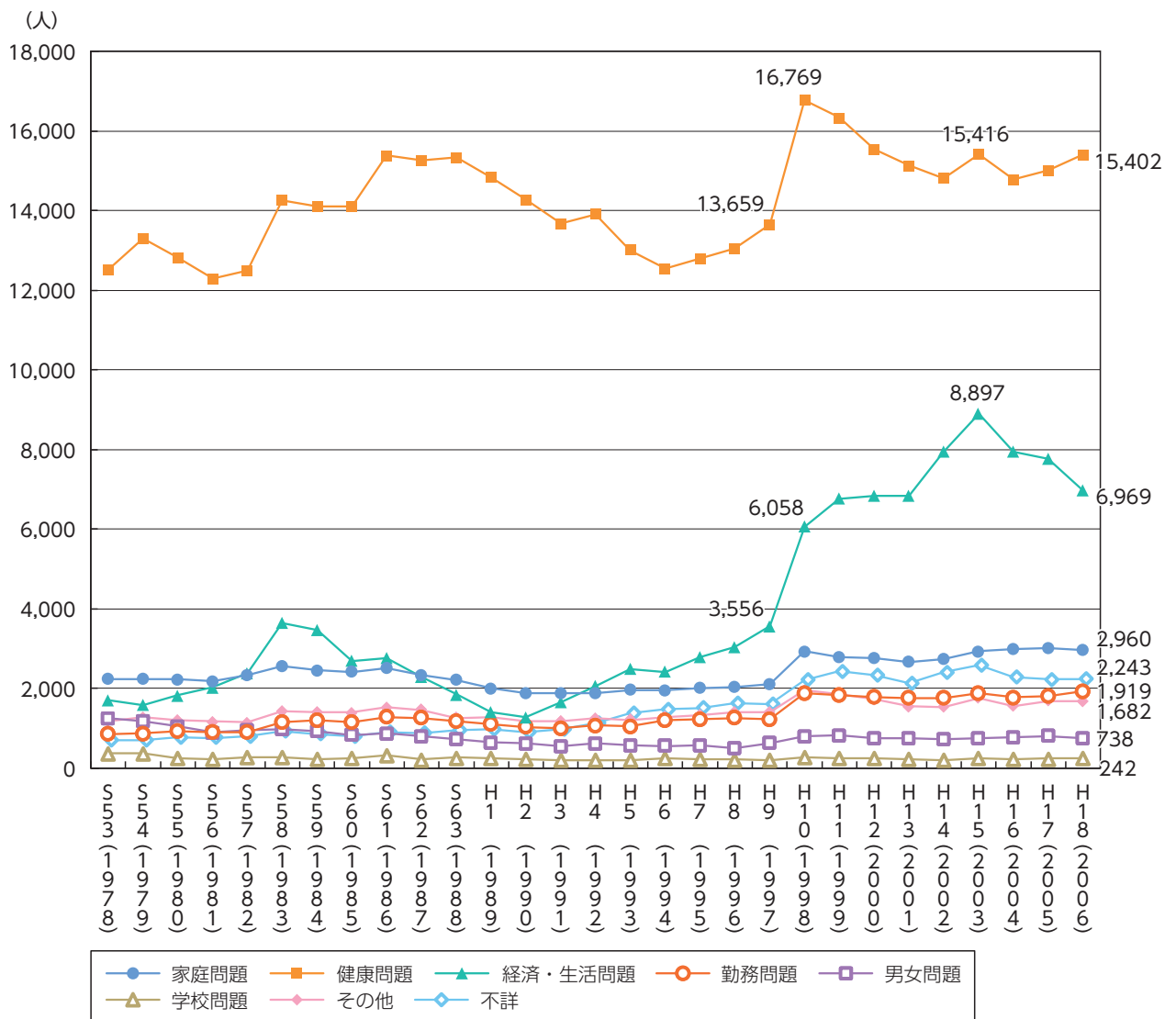
自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

原因・動機別の自殺の状況については、平成19年の自殺統計から、原因・動機を最大3つまで計上することとし、より詳細に原因・動機を公表している。

平成18年までの原因・動機別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-14図）、昭和60年前後に自殺者が急増した際には、

「健康問題」及び「経済・生活問題」が増加している。また、平成10年に自殺者が急増した際には、「家庭問題」や「勤務問題」が若干増加したものの、「健康問題」、「経済・生活問題」が大きく増加している。その後「健康問題」は減少傾向にあったが、15年に一旦増加した。「経済・生活問題」については、10年の急増の後、横ばいで推移したが、14年、15年と更に増加した。その後は減少傾向にある。

第1-14図 平成18年までの原因・動機別の自殺者数の推移

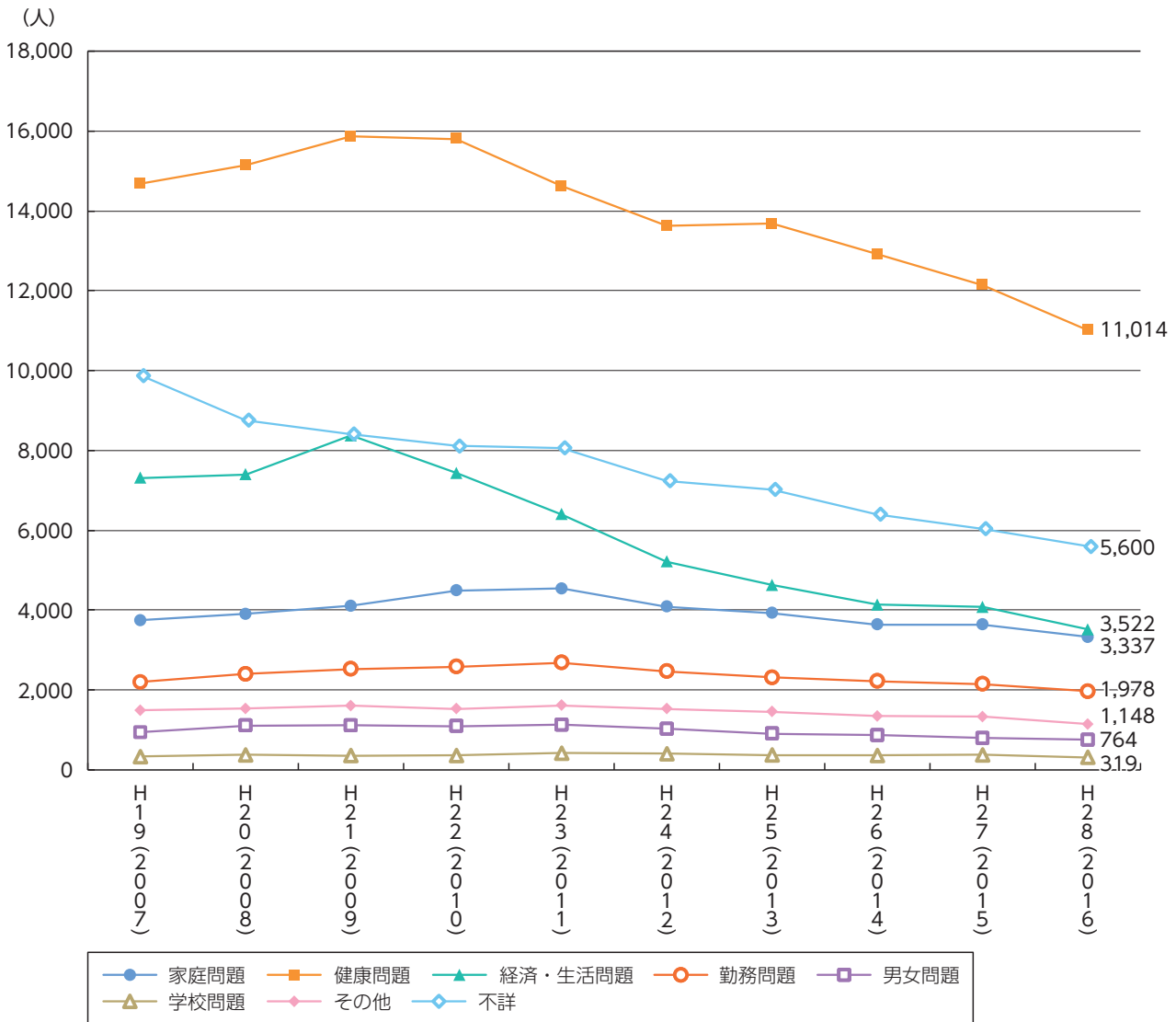


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

平成19年以降の原因・動機別の自殺の状況については（第1-15図）、「健康問題」が最も多く、次に「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」と続いている。「健康問題」や「経済・生活問題」は、ピーク時からの減

少が大きくなっている一方、「勤務問題」や「家庭問題」については、他の原因動機と比べてピーク時からの減少が小さくなっている。

第1-15図 平成19年以降の原因・動機別の自殺者数の推移



注) 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（平成28年は16,297人）とは一致しない。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成